

ドーナツの会の取り組み



特定非営利活動法人コウノトリ豊岡・いのちのネットワーク
兵庫ひきこもり相談支援センター但馬地域プランチ

ドーナツの会

活動の内容

- 1、一人一人の尊い命が輝いてほしい
- 2、どうしてひきこもりになるのか
- 3、私たちにも何かできるはず
- 4、但馬プランチの合言葉は
- 5、「つながる」相談と居場所

ドーナツこども食堂

ステップ表・初期の様子から

- 6、「つなぐ」 支援ネットワークづくり
- 7、「ひろげる」 包み込む社会を創るために
- 8、心をつないで
- 9、包摂型社会を創造するために

①

どうしてひきこもりになるのか

誰でもひきこもりになる可能性はある

●ひきこもりとは?

様々な要因の結果として社会的参加(義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など)を回避し、原則的には6か月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態(他者と交わらない形での外出をしていても良い)を指す現象概念である。

<厚生省労働省ガイドラインより>

●本人や家族の問題だけではなく、社会的な要因が複合的に絡み合っている

社会的な要因とは

学校、職場(いじめ、不十分な教育や支援、リストラ、失業、倒産、不安定な就労)

地域(無関心、偏見、希薄な近所づきあい、厳しい社会の目)

●困難に直面し、孤立しそうになった時に、助けてくれる地域の人、

支援機関や制度があればひきこもり状態が長く続くことはない。

(船越明子先生講演より)

③



くつろぎスペース



一人一人の尊い命が輝いてほしい

①義務教育中の不登校のうち一定の比率で青年期以降にひきこもりが出現している。

不登校児童生徒数

	(H27年文部科学省調査)	(H29年文科省調査)
小学校	2,7万人 (0.42%)	3.5万人 (0.54%)
中学校	9.8万人 (2.83%)	10.9万人 (3.25%)

②ひきこもりの長期化と高齢化

全国	推計 約54,1万人 (15才~39才) 推計 約61,3万人 (40才~64才)	H27年内閣府調査 H30年内閣府調査	3年以上75% 7年以上46.7%
兵庫県	推計 約2,4万人 (15才~39才) 推計 約2,7万人 (40才~64才)	H27年内閣府調査 H30年内閣府調査	
豊岡市	推計 約294人 (15才~39才) 推計 約375人 (40才~64才)	H27年内閣府調査を基に算出 H30年内閣府調査を基に算出	

②

私たちにも 何かできるはず

●平成23年11月ドーナツの会発足

平成24年3月 NPO法人化

●平成26年4月~

兵庫ひきこもり相談支援センター

但馬地域プランチとして活動

場所: 豊岡市城南町23-6

豊岡健康福祉センター3階

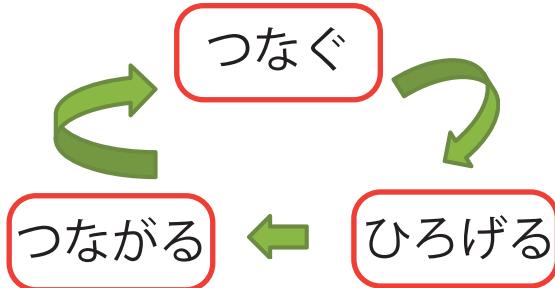
1階

④

陽当たり良好の交流スポット



但馬ブランチ（ドーナツの会）の合言葉は



ミニサポートチームを結成して協働して支援を提供する

(5)

「つながる」 相談と居場所

①相談の月平均 (H31年1月～R1年12月末の1年間の実相談人数)

電話相談 14人 (うち新規2人)

来所相談 29人 (うち新規4人) *毎月の相談延べ件数は100件以上

訪問支援 6件 (のべ) 一日平均5～6人

関係機関連携 5件 (のべ)

②開設の日時 (相談スタッフ30名)

開設時間 毎週 月～金曜日 9：30～16：30

家族の会 每月 第4水曜日 13：30～

若者が集う日 每月 第1火曜日 13：30～

家族・若者の合同イベント等 隨時実施 (そば打ち会・カラオケ大会等)

ドーナツこども食堂 毎月 第2・4木曜日 11：00～13：00

(7)

朝採りのおいしい新鮮野菜も売ってます！



(9)

不登校・ひきこもりの当事者が大人として身につけていきたい力 (願い)

①心が健康であること

②自分をコントロールすること・自分の個性を知ること

・大事にしている事・得意な事・嫌な事・苦手な事

・自分にできる事

③社会性を身につけること

・自分以外の人の存在を知る

・自分とは違った考えを持つ人がいることに気づく事

・社会のルールを守る事

・一人で解決できないことはほかの人に相談や依頼をする事

(トータルハーモニー研修会より)

(6)

めあて： しっかり食べて元気になろう！

どなたでも気軽に来れるあったかい食堂！



(8)

おいしい！やすい！元気が出る！！

バランスの良いおいしい食事を安価で提供！



(10)



第2・第4木曜の開催を
楽しみにして頂いてるお客様

ドーナツこども食堂は 若者を社会へつなぐ ミニステップ



赤ちゃん、子ども、お母さん、お父さん、不登校の子ども、
引きこもりの人、作業所の利用者、職員、地域の人等
多くの人が出会う場所
自分に役割を持って働く若者はお客様の接待を通して
新たな自分を発見！！
あたたかい食卓を囲んでみんながつながり合う場に。

(11)

(12)

食堂で働く若者たちの感想より

子ども食堂でスタッフの皆さんにお世話になっています。外出する目的ができて、生活に張り合いが持てました。
接客をするという事をしてみて外出時にも「接客」を観察するようになりました。その良い所を見つけて、店員の方に伝えたりしました。
今後もこども食堂を通じて気付きを得たいと思います。(Aさんより)

今日で食堂は2回目です。初め「身だしなみをきちんとしましよう」とスタッフに言われました。
初めは実感がわからなかったので散髪をせずにきました。いざ食堂に入ってみると大勢の人でびっくりしました。
恥ずかしいと思いました。それで今日はバッサリ髪を切ってきました。スタッフが僕を見間違えました。
今日は仲間と一緒にご飯が食べれました。(Bさんより)

人と関わるのは今も苦手ですが、食堂には毎回来ています。野菜売りのお金の計算が合った時が一番うれしいです。
食堂の日はいつもと少し違います。会う人の人数が多いです。
忙しい時は休みたいと思う時もあるけど、ずいぶん慣れました。(Cさんより)

ドーナツ居場所利用者 つながりステップ表

1年間（H31.1月～R1.12月）の利用者98人（実人数）
R1.12月31日現在

1 親（家族・親戚等）が本人に内緒で電話相談。	2 親（家族・親戚等）が本人への伝え方を練習。家族の会に参加等	3 親が家族や本人に相談して親と一緒に声をかけることができる。	4 家庭訪問して親と一緒に会うことができる。	5 家庭訪問をして本人に会うことができる。	6 親子で来所して相談や居場所の活用をする。入浴、睡眠、食事、会話など短期目標を立てる。	7 家族との会話を増やす。一人で居場所に来る	8 繼続して居場所を活用していいる。短期の目標の様子を相談する。長期の目標について意識する。	9 食堂でスタッフとして働いたり居場所で仲間やスタッフと交流したりできる。	10 就労や社会参加など自分の目標に向かいながら居場所を利用する。

居場所利用者の初期の様子からひきこもりの予防策を考える

(H31年1月～R1年12月) 1年間の居場所利用者記録より)

ひきこもりの初期	小学校不登校	中学校不登校	高校不登校から休学・退学	大学不登校から休学・退学	職場離脱	その他	合計
人数	12人	23人	20人	4人	13人	26人	98人
割合	12%	24%	20%	4%	13%	27%	100%

(14)

(15)

つなぐ

地域全体でひきこもり支援の輪をつなぐ

県

ひょうごユースケアネット推進会議・兵庫ひきこもり支援センター連絡協議会
(30機関で構成) 研修会・支援機関情報の発信・ほっとらいん相談

地域ブランチ

兵庫県地域ブランチ会議(但馬・丹波・阪神・淡路・播磨)

但馬

但馬地域ネットワーク会議
(朝来市、養父市、豊岡市、香美町、新温泉町)

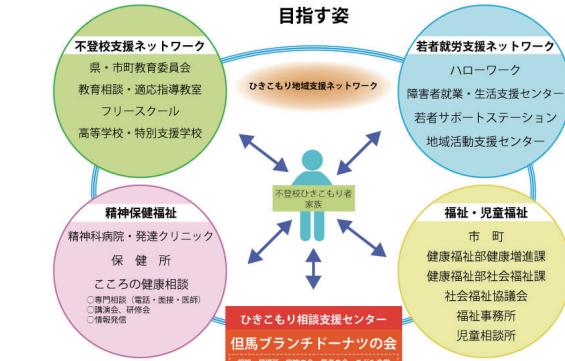
市町村

豊岡市ひきこもり支援連絡会議(10機関で構成)

つなぐ

支援ネットワークを通じて当事者を社会とつなぐ

ドーナツを中心としたネットワーク図



(16)

(17)

ひろげる 住み慣れた地域を包み込む社会にするために

①地域相談会（地域での講演会）と個別相談会の実施
豊岡市・朝来市・養父市・新温泉町・香美町

②但馬各市町の地域ネットワーク会議に参加
各市町の居場所設営の協力

但馬地域にひろげる活動の様子 R1 年度の記録より

豊岡市・但馬	養父市	朝来市	香美町	新温泉町
ドーナツの会の講演とワークショップ	①但馬青少年本部講演会(40名) ②こども園講演会(20名) ③兵庫県家庭相談員研修会(30名) ④神戸市民生委員研修会(4名) ⑤但馬県民局研修会(40名)	①行政職員研修会(40名) ②入札研修会(各地区4名) ③不登校、ひきこもりを考えセミナー(40名)	①支援者ネットワーク関係機関(18名)	①民生委員児童委員(予定)
ドーナツ食堂の見学と研修会	日高町・但東町・出石町・竹野町・城崎町関係者視察	支援者民生委員	支援者民生委員	支援者
ネットワーク会議	豊岡市年6回 但馬全域2月下旬	R1. 3・9月	R1. 8・10月	R2. 2月予定
居場所	H24開始 トーナツ	H29開始 ボラリス	R1開始 どんぐり	H28開始 カミング
研修会講師	船越明子氏 但馬プランチ講演会	島中雅子氏 (ゆうきの会主催)	船越明子氏 藤本圭光氏	

(18)

(19)

不登校・ひきこもりの解決には

包摂型社会の創造が重要 (船越明子先生の研修より)

●社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）とは
国民一人一人が社会のメンバーとして「居場所と出番」を
もって社会に参加し、それぞれの持つ潜在的な能力をできる
限り発揮できる環境を整備するための社会政策

そのための

- ・お互いに支え合いながら自立して生活できる地域づくりとは
- ・地域づくりに必要な視点とは



ドーナツのこれから

- ・居場所環境づくりの工夫
- ・相談者の個々の願いに沿うミニサポートチームの結成
- ・ミニサポートチームの定期的な情報交換と協働体制の充実
- ・切れ目のない支援を目指す定期的な面談（訪問）の充実
- ・社会資源を生かしたジョブトレーニングの開拓
- ・子ども食堂を通しての住民交流のさらなる充実
- ・支援者としてのスタッフの研修の充実と資質の向上
- ・各地域（住民）への啓発と意識の高揚

(20)

(21)

テーマ

不登校・ひきこもりの当事者、
誰もが生きがいやつながりを感じられる
社会をつくるためにできる事、しなければならない事

地域づくりに必要な視点

- ①私達の問題としてとらえる
- ②地域住民が主体
- ③地域の特性を踏まえる
(地域の強みを生かす)

ひきこもり支援を通して地域課題の解決に向かう

(20)

(21)

スタッフとのふれあいを記録に残す



(22)

(23)

心つないで
～出会いに感謝して～

居場所はだれが来てもいい場所です

ドーナツのスタッフは

いつでも皆さんを待っています



イラスト：青茶

〒 668-0045

兵庫県豊岡市城南町 23-6
豊岡健康福祉センター3階（市民会館隣）

特定非営利活動法人コウノトリ豊岡・いのちのネットワーク

兵庫ひきこもり相談支援センター但馬地域プランチ

代表：上坂 充 事務局長：戸田 和代

TEL 0796-26-1101 FAX 0796-26-1102

E-mail info@kounotori-inochinet.com

H P http://www.kounotori-inochinet.com

